【記者からの質問】

佐賀新聞／現在４位。当初の想定と比べ、どのような所感をお持ちか。
知事／想定よりもいい結果、そうでない結果が混在している。自県開催がうまく作用したところも、緊張して力が発揮できなかったところもある。これは想定内。今の想定では、１位は予断を許さない状況。本当にどうなるか分からない。
　みんながベストを尽くした結果なので、応援を含め、やれることはやっていく。

佐賀新聞／優勝争いできる位置にいるということか。
知事／はい。

佐賀新聞／全障スポの日程と衆院選の投開票日が重なる。大会運営への影響は？
知事／国スポの閉会式が公示日。JSPO 遠藤会長に出欠を確認したところ、国スポを優先すると返答があり安心した。
　全障スポの中日が開票日にあたるが、これは調整できる。国スポは市町の負担が重いが、全障スポは県の負担が重い。それでも、市町の協力が不可欠なので、影響はあるし、迷惑、負担をおかけする。
　開票所は、通常、ある程度大きなところで作業をする。代替場所で対応できると確認した。慣れない場所での開票作業になり、大変だが遺漏なきようにお願いしたい。

共同通信／ＳＳＰ構想は６年経過し、どれほど成熟したのか。国スポ後、力を入れて取り組みたいところをお聞きしたい。
知事／これまでは、想像以上に賛同を得られた。パートナー企業も増え、各競技団体の指導者クラスの選手を雇ってもらった。レスリング、柔道、スポーツクライミングは、佐賀で練習を積み、結果を出す子どもたちも出てきた。そのため、今後、ＳＳＰ寮も増やしていく。
　会期前競技で、ＳＳＰ構想を各団体の役員に紹介している。スポーツビジネス、ホスピタリティも含め盛り上げ、選手に還元することに賛同を得た。この取組が流布されると、佐賀でスポーツをやりたい人も増える。
　国スポ・全障スポでは、何十人かのメンターが、佐賀で競技をやり、子どもたちを教えたいと集まった。国スポ後も佐賀に残る選手が多い。彼らとＳＳＰ構想をさらに充実し、各競技を盛り上げていくと、佐賀はスポーツのまちとしてさらに成熟する。
　スポーツスカウトも行っている。日本では、親と同じスポーツをする子どもが多いが、子どもたちには、いろんなスポーツを自由にやってほしい。また、データをチェックし自分に合ったスポーツを選ぶこともできる。スポーツを選ぶ段階が柔軟になれば、ＳＳＰ構想が飛躍するきっかけになるのではないか。

西日本新聞／会期前競技が始まり、改めて国スポ開催が現状の手挙げ方式がよいか、規模の縮小など改善したほうがいいか、知事の考えを。
知事／47 都道府県すべてが開催する是非をもっと話し合うべき。本当はやりたいが負担が重すぎるのであれば、考える余地はある。やりたくないが回ってきたので、という開催地には行きたくないという人たちの声を聞いた。
　同じ形式で開催する必要はない。県の特色があっていい。各県が、身の丈に合った大会を計画し、スポーツの力で盛り上げたいところがやってほしい。

西日本新聞／新しい大会の取組で、手応えがあるところはどこか。
知事／来年開催の滋賀県は、国体仕様で準備していた。しかし、佐賀の大会を見ながら国スポ仕様を参考にしてくれているところ。メダルは引き継ぐとの発表もあった。
　２年後の青森県も、身の丈に合った大会と言っている。工夫した国スポになるだろう。

ＮＨＫ／会期前競技の評価を。また、記念すべき国スポ大会に向けた意気込みを。
知事／いい滑り出しだと思う。10 月５日開幕といい過ぎて、１か月も前に始まっていることが十分に伝わっていなかったと反省している。
　うまくいっていると思うのは選手が喜んでいること。各競技団体、スタッフも盛り上がっていること。これから県民の皆さんに、もっと来ていただきたい。観客を巻き込んだ盛り上がりは、本大会に向けて改善の余地がある。どのスポーツも面白いので、県民の皆さんにも見に来て欲しいと伝えていきたい。

読売新聞／宿泊先やアクセスに関し、県外の方から利便性に関する意見が届いているか。
知事／１つあったのは、飲食付きではない宿泊の件。高校生が夜、街に出たいが、居酒屋しかないと。そういう声を受けて、夕食を食べられるように対応したという話を聞いた。それなりにいろいろな対応をしていると思う。
　交通関係は、特にない。県外の人は、都市型のアリーナで、むしろ近いと思う方が多い。佐賀の車社会との差だと思う。快く途中のアクセスポイントまでバスで来てもらい、そこから歩いていただいている。